

第5学年 体育科の実践

1 単元名「ソフトバレーボール」

2 単元目標

◎やさしいルールで、ソフトバレーボールを楽しむ。

○協力公正などの態度を育てるとともに、安全に留意し、今持っている力で運動を楽しむ

3 「ひびきあう三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

研究課題・・・子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成
手立て・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり
ブロックテーマ 「仲間への理解、自立する自分」
・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿 ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

〈聴く・話すについての指導〉

4月当初に、5年生としての話の聴き方・話し方はどのようなものが適切であるかクラスで話し合いの場を設けた。また、そのときに、話をしている人と聴いている人の気持ちを大切に考えられるようにした。誰かが話しているときに友だちや近くの人と話す姿が見られたり、関係ない顔で手いたずらをしたりしている児童が多くいるためその都度声をかけている現状である。聴くこと、話すことの必要感を感じる場面を多く設定することで、聴く・話すの態度が身についていくと考え、係活動・当番活動の充実に力を入れてきた。学習の中でも、子どもの必要感に迫ることができるような課題設定をできる限り取り入れ、話を聴く・話すについての指導を続けている。

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

総合の学習で保育園交流を行った。その中で、活動内容をどのようにするか、計画をどのように立てるかなど、必要感のある話し合いの場では、各グループのリーダーを中心に話し合ってきた。「名札に安全ピンを使わない方がいいよ。」「これだと危ないんじゃない。」など、交流する相手を意識してグループ内で考えを深めることができた。活動内容を計画する際には、これまでとは違う視点で物事を考え、グループ内でよりよい活動を作り上げる経験をしてきた。自分一人では、決して成功させることができなかったことを仲間と成し遂げたという経験が、グループや仲間と学ぶ事の良さに気づく機会になったのではないかと感じた。

4 単元と指導について

〈単元について〉

本単元は、ネット型のチームスポーツであり、学習指導要領では、「操作しやすいボールを用いたり、ボール操作についての制限を緩和することを通して、連係プレーによる攻撃やそれに対応する守備がしやすくなるように簡易化されたゲームをする。」と示されている。ソフトバレーボールの一般的特性は、ネットを挟んで対峙した2つのチームが、ボールを床に落とさずに、定められたルールの中でラリーをして得点を競い合っている楽しむ運動である。また、子どもから見た特性は、ボールが柔らかいことや相手チームとの接触がないことで安心して楽しむことができることや、ボールを打って点を取る楽しさ、ボールを落とさずチームでつなぐ楽しさ、チームで立てた作戦が成功したときに喜びを分かち合え楽しさなどがある。チームや個人の課題に試合の中で気づき、互いにかかわり合いながら、よりよいチームの作り方を学ぶことができる。

〈指導について〉

本単元は4年生の時にも経験しているため、事前にソフトバレーボールに対するアンケートを行い、児童がソフトバレーボールのどこに楽しさを感じているのか、また、楽しめない児童がいる場合には、何が楽しめない理由なのかを把握し、みんなが楽しめるルール作成を行った。チーム編成の際には、自分たちで作るチームの方が互いに協力し合えと考え、児童たちが話し合いでチームを作る場を設けた。仲良しではなくチームとしてのバランスはどうかという視点でチーム編成ができるよう心がけた。

子どもたちの課題解決に関しては、チームごとの必要感に応じて対応をし実演したり、練習方法の提示をしたりする。また、チーム内のイメージが共有できるようホワイトボードとマグネットを用意し、話し合いがスムーズに行えるようにする。試合が進むにつれ、チームの特徴を捉え、自分たちがどんな練習をすべきか、どんな力を更に伸ばす必要があるのかを考えることができるよう、チームの振り返りの時間を大切にしたい。また、次回に向けての課題を明確にし、チームのめあてを達成するために個人のめあてを設定できるよう個人カードも有効に使いたい。

本時では、チームとしての特徴を捉え、自分たちが対戦したいチームを選択し、試合を行う。その中で、**自分たちのチームの問題を解決するための方法を互いにかかわり合いながら見つけていく姿**をひびきあいの姿としたい。

〈アンケート内容と結果について〉

ソフトバレーボールが楽しみである	はい	22人	いいえ	8人
得点をきめてみたい	はい	19人	いいえ	11人
ボールに触るのがこわい	はい	0人	いいえ	30人

※楽しみだと感じている児童の理由は次のようなものがあつた。

- ・体を使うから
- ・オリンピックでやっていた選手がかっこよかった
- ・連携が深められるから
- ・1回やって楽しかったから
- ・遠くに打つのが楽しいから
- ・体育が好きだから
- ・ボールで打ち合いできるから
- ・見学して楽しそうだったから
- ・チーム戦で団結できそうだから
- ・ボールを使ったスポーツが好きだから
- ・ボールが来るとワクワクするから
- ・柔らかくてうちやすいから

※楽しみではないと感じている児童の理由には次のようなものがあつた。

- ・運動神経が悪いから
- ・ボールがまわってこないから
- ・ちゃんとできないと文句を言われるから
- ・球技があまり得意ではない
- ・あまり楽しくないから

5 単元構想

5 年体育科「ソフトバレーボール」(全6時間)

単元 目標	◎やさしいルールで、ソフトバレーボールを楽しむ。 ○協力公正などの態度を育てるとともに、安全に留意し、今持っている力で運動を楽しむ。
----------	---

次の体育の内容がソフトバレーボールであることを伝える。

- ・ 4年生の時にやって楽しかった。
- ・ オリンピックとか見て楽しそうだった。
- ・ ボールが来なくてつまなかった。

アンケートを作成・集計し、子どもたちバレーに対する印象や思いを捉えると共に、簡易化されたルールを作成する。

・ チームで団結できるのが楽しい。

チームを決めよう①

- ・ 先生が決めて。 ・ 自分たちで決めたいよ。
- ・ 同じくらいの力じゃないと面白くない。
- ・ 最初にリーダーを決めようよ。 ・ 早くやりたいよ。

まずは試しの試合をしてみよう①

- ・ ボールにたくさん触れて楽しい。 ・ ルールも簡単だからいい。
- ・ キャッチならわたしにもできるかも。 ・ サーブができてよかった。
- ・ 見ているときがつまらない。 ・ 3回以内で返すようにしたい。
- ・ いろんなチームとも試合をしてみたいな。 ・ みんなで楽しくやりたいね

色々なチームと対戦してソフトバレーボールを楽しもう②③
ねらい1 自分たちのチームを知り、今持っている力でソフトバレーを楽しもう

子どもたちの納得のいくチーム編成(単元を通してチーム力を高められる)となるよう支援する。

ルールを分かりやすく、簡単にすることにより、運動を苦手と感じている子どもたちも進んで参加できるようにする。

ルールの変更や作戦タイム・練習時間の確保など、子どもの必要感に応じて設ける。

Aチーム	Bチーム	Cチーム
・ 点を入れられて嬉しい ・ 相手のサーブの時に奥の方が手前か考えながらできたよ。 ・ 間に来たボールどうしよう ・ チームで考えたいな	・ ボールキャッチが上手くできないね。 ・ ボールがすべるよ。 ・ アタックが上手く打てないや。	・ サーブでも点が取れてうれしい ・ ローテーションが上手くできない ・ みんなで点を取りたいね ・ チームで話し合う時間がほしい
Dチーム	Eチーム	Fチーム
・ サーブでしゃばいしないうになりたいよ ・ 得点取れたけど上手にアタックできなかった ・ どうやって上手くアタックするのかわ教えてほしい	・ 積極的にボールがとれたぞ。 ・ パスが思ったところのに行かないよ。 ・ 点がたくさん取られる。 ・ 点を取りたい。	・ ボールが触れて嬉しい。 ・ パスがつかげられない。 ・ 楽しくなかった ・ 文句多いチームでやだね。 ・ ボールが来ないとつまないよ

チームの問題を解決しよう④⑤(本時)⑥
ねらい2 自分たちのチーム力を高め、対戦を楽しもう

チームの振り返りの時間を学習の最後に設けることで、今日の学習のチームのめあてを振り返り、次時のめあてを決定し、チームとしての学びを継続させていく。
めあてにあった練習をするための時間、チームで作戦を立てるための時間、1試合目の振り返りの時間を「チームの時間」として設けることで、チームとして問題解決に向かうようにする。

Aチーム	Bチーム	Cチーム
・ 間に来たときに困らないように声をかけ合ってみようよ ・ サーブの時拾いやすいようにポジションつくってみよう	・ 投げたボールが高すぎると打ちにくいから、頭の少し上くらいに投げよう。 ・ きゃっちするために、ボールから目を離さないで声をかけ合おう。	・ みんなが点を取れるようにサーブで奥の方に狙って打ってみよう ・ ローテーションが上手くないのは順番が決まってないからだよね
Dチーム	Eチーム	Fチーム
・ サーブが入らないからサーブが入るように練習しよう。 ・ 遠くに跳ばした方が相手が攻撃しづらいよ ・ アタックが強くてできないから、○○さん教えて。	・ 得点されないようにボールが多く来るところにキャッチの上手い人を置こうよ。 ・ ボールを奥に打たれると攻撃しづらいから、奥を狙ってみようよ。そうしたら上手に守れるかも。	・ みんなで声を出し合えるように練習しよう。 ・ できるだけ周りを見てみんながかわれるようにしよう。

試合や振り返りカードの記録から、気付きの少ないチームや解決の糸口が見えないチームには積極的な声かけや練習方法の提示を行う。

作戦や練習方法のイメージが共有されるようホワイトボードやマグネットなどを用意しておく。

- ・ 負けちゃったけど、ねらったことができると楽しいね。 ・ 前よりも上手くなってるね
- ・ もっといろんな攻撃の仕方を考えてみたかったな。 ・ またこのチームでやりたいね。

6 本時について

(1) 本時目標 チームの問題を練習や試合の中で考え、解決しようとする。

(2) 本時展開

学習活動				主な支援・留意点 ◆評価【観点】
チームの問題点を解決しよう				・安全に用具の準備ができるよう配慮する。 ・対戦相手は児童が自分たちで話し合い決め、自分たちの作戦が上手くいったか、練習の成果が出たか、前回と比較できるようにする。 ・グループ内のめあてを確認してから、個人のめあてを立て学習に臨むようにする。 ・チームのめあてにあわない個人めあてを立てている児童には声をかける。 ・練習内容や作戦内容のイメージが共有されやすいよう、各グループに作戦用のボードを用意する。 ・チームのめあてにあった練習方法が思い浮かばないグループには、練習方法の提示をする。 チームの問題点を解決するために、練習方法や作戦を考えることができる。【思考・判断】
Aチーム（PPOP） 集中できるようにしよう。 ・名前を呼んでみるのはどう。 ・相手のいないところに打つのはよかったからその練習もしようよ。 ・名前呼んでその人に打つのはどう。	Bチーム（GB） 連携してチームの弱点をつけるようになること。 ・〇〇を運うといいぞ。 ・そのためにはボールがコントロールできないとためだね。コントロールする練習をしよう。	Cチーム（チーム29） 打ち方を変えて強く打てるようになりたい。 ・ボールを回転させて打つ練習をしよう。 ・山盛りボールが取りにくいから高く打ってみよう。	準備・めあての確認 （チームと個人） 10：35～ 10：45～ 1試合目 10：55～ チームの時間 11：05～ 2試合目 11：15～ 片付け・振り返り	
Dチーム（POTETO） 攻撃にも守備にもよい作戦を考えること。 ・打ったらすぐ下がるのはどう。 ・速くから打つてもためじゃない。 ・前でキャッチできるような作戦にしようよ。 ・レシーブの練習もしない。	Eチーム（マスカット） 得点を捕れるようになること。 ・ボールをコントロールできるようにならないとね。 ・サーブも大事だから練習しようよ。 ・ボールをコントロールする練習って何だろう。	Fチーム（はーくんず） ポジショニングを上手に使えるようになろう。 ・三角形の形にすればいいんじゃない。 ・前二人？後ろ二人？ ・ポジショニングの練習って何？		

7 実践を終えて

(1) 本時に至るまでの経過について

運動が好きな児童が多く、体育の学習でも積極的に体を動かし、楽しんでいる様子が見られていた。しかし、本単元は昨年初めて行ったスポーツであり経験が浅く、アンケート結果からも楽しみと感じていない児童が4割程度もいた。そこで、ソフトバレーボールのどのようなところに楽しみを感じるか、また、どのようなところが楽しさを阻害する要因であるのかを調べた。楽しみではないと感じている児童の多くは、ボールに触れる機会が少ないこと、ボール操作が難しいということであった。アンケートの結果を踏まえ、児童がソフトバレーボールの特性に触れられるようにルールを作成した。ルールでは、ボール操作を簡易化するために、「サーブは投げ入れることができる」「3回で返す内の1回はキャッチをしてもよい」とした。ルールに慣れるまでは、上手くゲームが進まないこともあったが、試合を重ねる内に、声をかけ合いながら試合に熱中する様子が見られるようになってきた。2回目を終えた時点で、どのようにしたらみんなが楽しいかという視点で話し合い変更をし、「3回以内でボールを返す」というルールに変更した。その後、試合を重ねる中でチームの問題点に気付く姿が、振り返りカードや試合の中の声かけなどから見えてきた。振り返りカードには、「サーブを強く打てるように練習したい。」や「フォーメーションの練習をしたい。」などと書かれていた。練習時間の必要性を感じ始める姿が見られたので、子どもたちに練習時間が必要であるかを聞いてみると多くの児童が作戦を話す時間や練習する時間を求めている。そこで「チームの時間」を設け、練習したり、話し合いをしたりする時間を確保した。すると、チーム内での会話や関わり合う様子が多く見られるようになった。そして、本時では、互いにかかわり合いながら解決していける姿を願い、本単元では、全体での関わりの時間よりも、チームの時間を大切に扱うようにした。

(2) 本時の様子について

チームの解決したい問題は前時の試合の振り返りからチームで明確にし、本時に臨んだ。準備終了後のチームの時間ではホワイトボードを使いながら話し合う様子が見られた。試合中にも声をかけ合いながら「どんまい。」や「ナイス。」など温かい雰囲気の中で試合をする様子が見受けられた。2回目の作戦タイムでは、チームによって問題解決のための練習時間に使ったり、話し合いに使ったりしていた。しかし、問題解決に有効な作戦を考えることができていたチームもあれば、問題とは異なる練習をする姿があった。

試合後の振り返りでは、その日の問題に対する解決策がどうであったかを話し合い、次時につながる問題を見つけ、チームとしての力を高める姿が見られた。

（３）成果と課題

チームでの関わりの時間を多く設けることで、関わり合う時間が増え、チームとしての絆が深まり、団結していく様子が見られた。ルールを簡易化することで、どの児童にも役割やボールに触れる機会が増え、チームの問題を自分にも解決できる問題として捉えることができた。そのため、話し合いにも意欲的に参加できたことが成果である。課題としては、チームの問題点の共有が難しいということである。ホワイトボードを使い伝えたいイメージの共有を図ったが、児童間での問題意識にはズレがあり、みんなで解決したい問題となっていなかったことが課題である。また、「課題」「問題」「めあて」などの言葉が混在してしまい、児童を混乱させてしまったことが課題であった。